

# やすうら

# 六軒

気さくで楽しいトークのお母ちゃんが看板



屋台 一二三 (呉蔵本通り沿い)

する?」と横子さんが元気な声と愉快なトークで出迎えてくれます。注文も「よっしゃ!」と威勢よく受けてくれる、まさに肝っ玉母さんです。料理は昔ながらの味が基本。名物は豚足・おでん・ラーメン、その他一品料理も美味です。特に豚足は人気で、これを目当てに食べに来る人も多いとか。

客席前では横子さんが調理。奥は俊毅さんが担当で夫婦の息もぴったり。お客様も途切れることなく席が埋まり、2代・3代と訪れる常連客も多いそうです。

現在11軒が軒を連ねる屋台群。「昭和50年頃は屋台が30軒もあって朝まで活気があったね~」と横子さんは当時を懐かします。一方で「大変なのは屋台引きや閉店後の掃除かね~」と辛い事もあるが、お客様の笑顔に会えることが何よりの楽しみだそうです。

「体の続く限り頑張るので、安浦から来たよ~!と気軽に声をかけてね」と、笑いの絶えない仲の良い夫婦屋台です。

■屋台「一二三」呉市中央3丁目蔵本通り 金・土のみ 19:00~4:00まで



輸入雑貨・インテリア家具のお店  
『ANUE(アヌエ)』

安浦の皆様に気軽にお越し頂きたいということで  
来店時に「タントを見ました」と言って頂ければ  
店内全品20%引きになります。  
(お一人様1回限り、平成27年1月末まで)



浦尻の「仮壇の小山」横にちょっとオシャレな雰囲気のお店があるのをご存知ですか?  
ここは輸入雑貨や家具を販売する『ANUE(アヌエ)』。代表者は小山馨央(こやまよしひこ)さん。『急なプレゼントが必要になったとき、安浦にトレンドで可愛いお店があるじゃないかと言われるよう、皆様に必要とされるお店にしたい』と平成20年から始められました。以前勤めていた自動車会社のショールームデザインの経験を生かした商品選びをしていて、普段あまり見かけないヨーロッパの雑貨やスタイリッシュな家具が置いてあります。思わず雑貨に出会えるかもしれませんね。

なお、雑貨や家具の販売以外にも家具のトータルコーディネート、フルオーダー家具・店舗住宅の設計デザインもされているので、気軽にご相談ください。



■ANUE 呉店 安浦町内海南 2-12-22  
「仮壇の小山」横 ☎ 0823-27-5777 11:00~20:00 不定休

# 呉の名物屋台 へニミ (いちにいさん)

安浦内海在住の山口俊毅さん(74才)・横子さん(70才)夫婦は、昭和51年から呉の蔵本通りで屋台を始めて今年で39年を迎える有名な屋台「一二三」。毎週、金・土の2日間営業で今も変わらず屋台を引いて頑張る、呉屋台の代表格です。のれんをくぐると、「いらっしゃい!なんに



山口俊毅さん・横子さん夫妻と孫の愛理ちゃん



自慢の豚足

まちづくり情報誌

# TANTO

発行 平成26年12月10日

No.21

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話: 0823-84-2261(年4回発行)

**安浦  
「初日の出」  
スポット**

日の出予想時間: 7:10頃  
方向: 南東の大崎下島(豊町)  
あたりから上がります



## おでかけ情報

12月 いなし安浦青空市 12月20日(土) 8:30~ いなしふれあい広場

1月 安浦地区成人の集い 1月12日(祝) 10:00~ きらめきホール

いなし安浦青空市 1月17日(土) 8:30~ いなしふれあい広場

きらめき音楽館 1月17日(土) 11:00~ 入場無料 きらめきホール

ベニシアスタンリー スミス文化講演会 1月18日(日) 14:00~ 完売 きらめきホール

くれまちかど落語会 1月24日(土) 14:00~ 入場無料 きらめきホール

2月 きらめき音楽館 2月14日(土) 11:00~ 入場無料 きらめきホール

第17回 安浦囲碁大会 2月15日(日) 9:00~ 安浦まちづくりセンター

いなし安浦青空市 2月21日(土) 8:30~ いなしふれあい広場

安浦かき祭り 2月22日(日) 10:00~ グリーンピアせとうち

安浦ミュージカル 3月8日(日) 15:00~ きらめきホール

きらめき音楽館 3月14日(土) 11:00~ 入場無料 きらめきホール

いなし安浦青空市 3月21日(土) 8:30~ いなしふれあい広場



## 安浦の中国自然歩道を歩こう!

### ～内海・仁賀ルート～

小春日和の暖かい日、町内の中国自然歩道を歩いてみませんか。

No20号で町内ルートを紹介しましたが、今回からシリーズで東から西へ寄り道しながら歩くコースを詳しく紹介。1回目は、安芸津町境から女子畠、藤木を通り亀山神社までのコースです。本来、町境が起点となりますが、道が通りにくいため、女子畠を起点として案内します。

女子畠バス停で下車、竹原方面へ125m進み、小道へ右折すると標識が見えます。龍目山1.8kmの標識に従い町境まで県道353号を横切り約500m。10分程で着きます。(途中、イノシシ防止柵がありますが開閉できます) 今回は町境からUターン。

女子畠で三津口・内海方面の分岐を内海・黒瀬方面へ進む(標識あり) 鍬畠付近(県道334号との合流点)で藤木川の流れに目をやり疲れを癒やし進みます。頓原バス停付近で県道34号を渡って標識に従い小道を進み亀山神社を目指す。亀山神社では、乳飲ませ狛犬が迎えてくれます。参拝後、トイレ休憩を兼ね、社叢(緑化保全地域)に身を置こう。ここ亀山神社が「野呂山ルート」と「内海・仁賀ルート」起終点です。亀山神社の北側に諏訪神社があり、ここも乳飲ませ狛犬があります。一息入れたい方は喫茶リヨンがあります。次のコースは亀山神社から野呂山ルートの一部を紹介します。

**女子畠バス停～0.7km～  
安芸津町境～2.9km～  
頓原標識～0.6km～亀山神社  
コース延長4.2km  
約1時間のコースです。**



町境標識

藤木川 鍬畠付近

亀山神社



## てらかふえ

内海の浄土真宗本願寺派の「信楽寺」では、月に一度「てらかふえ」を開催しています。お寺を開放して、どなたでも自由に過ごして頂きたいと、住職 廣幡康裕さん・彩さん夫妻の想いで3年前から始まりました。飲み物・お菓子付きで入場料は無料です。「小さなお寺ですが、みんなが来てほっとできる場所になればと思っています」と康裕さん。気軽に訪れ、おしゃべりや音楽、読書などで時にはのんびりと時間を過ごしてみませんか。



■てらかふえ開催日：12月20日(土) 10時～17時  
■大晦日コンサート「樂」in信楽寺 12月31日(水) 21時～  
■信楽寺 安浦町内海北1-5-5 ☎ 84-2375

## 安浦町まちづくり協議会の活動

### ～安浦中学校総合学習で連携～

安浦中学校1年生の総合学習として「ふるさと再発見」と題し、3回シリーズでまちづくり事業に参加しました。

- 第1回 そばの種まき・草刈りの農業体験
- 第2回 安登・内海・三津口地区に分かれ歴史を学ぶフィールドワーク
- 第3回 そばの収穫作業 農業体験

84名の1年生が参加し、農業体験では、「慣れない事ばかりで疲れたけど、大変さがわかった」フィールドワークでは「地元に住みながら知らない事ばかりでいい勉強になった」と様々な感想が寄せられました。次世代を担う子供たちに故郷を知り誇りを持ち、人生の夢や目標に向かって頑張ってほしいですね。



みんなでそば植え作業

歴史を学ぶフィールドワーク

そばの収穫作業



4代目上田真彰さんと美穂子さん



初代の上田忠さんとスエ子さん



自慢の仕出し料理

なニーズに対応し日々工夫されています。時代と施設の多様化で、全盛期ほどではありませんが、真心込めて料理する事をモットーに、口コミも広がり遠方からの注文も多いとか。「お客様から“美味しい”の一言をいただいくとやりがいと励みになり、幸せな気持ちになります」と美穂子さん。行事、お祝い、ご法要など人々の思い出に欠かせない料理をこれからも提供していきます。

### 写真で見る今と昔

## 安浦アーカイブ

時代とともに  
変わりする  
や人々の暮らし。  
懐かしい風景を  
ご覧ください。

### グリーンピアせとうち(仕形地区)



第11空隙に接収された軍用地から戦後開拓され、柑橘類や小芋など生産し住居も点在した【昭和45年】



現在はグリーンピアせとうちのテニス場や駐車場などレジャー施設に様変わりしている。

### 柏島神社(三津口柏島)



柏島神社の旧社殿。大祭ではかつて島全体を囲むほど船が集まり参拝に訪れていた。【昭和45年】



現在はコンクリート造りの立派な社殿になっている。

先代の味と伝統を継承  
■上田忠(有) 上田本店

昭和5年に初代の上田忠さんが創業。川尻町の出身で、最初は蒲鉾の製造販売からスタートし運送業を経て、昭和20年代から仕出しやお弁当を始めました。84年目の現在は、4代目真彰さん(29才)が伝統を受け継いでいます。昭和時代に冠婚葬祭や宴会場は数多く、安浦の人々にとって思い出深い施設だと思います。

「初代の忠さん・スエ子さん夫婦は真面目な働き者で、早朝から夜遅くまで仕込みなどしていました」と三代目の妻、美穂子さんは忙しかった当時を思い出します。当店はスエ子さんから受け継いだ味と伝統を活かしつつ、4代目の真彰さんは様々に施設の多様化で、全盛期ほどではありませんが、真心込めて料理する事をモットーに、口コミも広がり遠方からの注文も多いとか。「お客様から“美味しい”の一言をいただいくとやりがいと励みになり、幸せな気持ちになります」と美穂子さん。行事、お祝い、ご法要など人々の思い出に欠かせない料理をこれからも提供していきます。